

我孫子市福島市長との懇談会

千葉県 高橋 聡

住民ネットワーク21の宇野氏の企画により、11月17日（日）午後2時より、常磐線天王台駅喫茶「いちいの樹」にて勉強会が実施された。当日は茨城県より5人千葉県8人の参加者でテーブルを丸く囲んで、フレンドリーな雰囲気です話合った。まずは福島市長の情報公開条例に対する講演を1時間程実施してもらった。

- 我孫子市の公文書公開条例は決算前の文書も対象とし、市議会も実施機関で、個人情報保護条例になかった部分を条文に含めて制定している。請求対象者を「何人も」とは出来なかったが、これは原案に実施機関として議会が含まれていなかったもので、議会についてのみ一点集中で改正させたためである。市外の請求に対しては「申し出」という形で対応している。（今年12件、市外2名による請求があった）
- 平成7年度の請求件数は0であったが、これは出来る限り条例を使用せずに必要な情報を提供したためである。我孫子市は条例以外に行政情報資料室があり、延べ635人の利用者があった。
- 自己情報開示請求が8件あり、ほとんど指導要録

が対象である。我孫子市の教育委員会は対象者が義務教育期間中（我孫子市内で）の場合は開示していない。また、所見の部分は非公開である。

（いずれは開示するように要望している、川崎市では前面開示）その他教育関係に公開出来ない物があった。（不存在2件、体罰事件時の職員会議録は部分公開、教師の懲戒処分関係は非公開）

- 審査会メンバーは弁護士2（東京の北沢弁護士）、教授1、医師1、役人OB1の5人構成である。現在まで不服審査請求は無い。
- 役所内でも内部文書作成時の意識が変わって来たと感じる。全体に行き渡るには時間が掛かるが、議会からの資料請求は前よりやり易くなった。この制度が制定されることにより、公開請求による制度の利用者が増えることが重要ではない。行政からの積極的な情報提供の方が大事である。請求者の統計データでは、ほんとの成果は現われて来ない。

以上が基調講演の部分で有ります。次回「BT」には、その後の質疑応答の部分を掲載します。

（平成維新千葉会報「BT」12月号より転載）

J-COM 杉並ケーブルテレビ

杉並区 浅見勇喜知

年末の今日、私の家にもCATVが入り、20才前後の若い人が2人、配線工事に来た。

配線は同軸1本と予想していたが、驚いたことは太さ8ミリ位の線2本と5ミリ位の線1本、計3本が一体になった線の束を、延々30メートル先の電線にぶら下がった分配器から引いて来た。CATV放送用の同軸（これは従来のテレビでもお馴染みである）とアース線、それに4芯のシールドケーブルの3つが一体になっているのである。

3番目の4芯のシールドケーブルは現在、下井草で実験中の双方向通信と、インターネット導入の布石だという。

新聞でご存じの方もいると思うが郵政省は10月に「杉並CATV」を第一種電気通信業者に認定した。

問題の4芯のケーブルは、家には引込まず、外の壁に取付けた保安器の手前に巻いて帰った。わずか20,000円の初期費用で、頼みもしないのに通信分野に乗り出す布石をして回っている？ この会社は、米国のジュピター・テレコムから技術導入し、住商が出資している。

この会社が3年前設立された時は、当面、新宿の

高層ビルの陰になる青梅街道沿いの難視聴地域が先という説明であった。私も交換技術者の端くれ、初期投資の膨大さは想像つく。諦めていた。

ところが先日、荻窪駅まで15分の裏道を歩いていると、東電とNTTに加わって奇妙な電線が至る所に張り巡らされているのに気がついた。たどって行くと、バスの通る広い道にはないが、住宅や商店の立ち並ぶ狭い道の至る処にこの新顔の電線が張り巡らされている。私の住む私道にまで。

今日、工事に立ち会い、使うケーブルをみると、Commscope, Inc. Made in U.S.A とある。ケーブルを最後にテレビにつなぐCATVコンバータはパイオニア製であったが。

偶々、今、私はNTT関連の通信線路機器メーカーのコンサルタントをしているが、見えないところで米国通信会社による日本進出が始まっている。NTT関連のメーカーなどは、お呼びでない。

工事に来た若者の姿も印象的である。ズボンに泥だらけにして爽やかな仕事をして帰った。職人の仕事も、こうして若い世代に移ってゆく。他人事とは思えない。